



---

靴董 Put vejni(風よ吹け)が第二の国歌としてラトビアで歌い継がれたことを紹介。虐げられた国の歴史と、人の鎖が1991年ロシアからの無血革命を成し遂げたことも紹介される。その話に熱心に耳を傾けている観客が舞台上から見え、私の目には印象的だった。この曲は、特に石川先生の思い出も深く、先のアルジェリアの人質事件で、テロの犠牲となった企業戦士の思いを重ねながら歌ってほしいとの熱心なご指導だった。? 異郷の地の砂漠に散っていった方々の無念を思いながら歌ったこの曲は、私には忘れられない歌となった。ラトビアの歌はこういう悲しみを超えて生まれきたのだろう。?最後に、ラトビアを賛歌する Tev muzam dzivot Latvja(永遠に生きようラトビア)の曲で締めくくられ、盛大な拍手に舞台が無事に終わったことを実感。? 後日、ワールド航空サービスから、「お客様からの反響も大きく、ツアーの申し込みも沢山あった」とお礼のメールが届く。特別編成チームの面目が保たれたことを紹介したい。